様式３－２

令和8年9月29日

令和8年度　結果の分析及び今後の改善策

（ 中間・最終 ）

広南中学校区　校番　２　学校名　呉市立広南小学校

重点	d 中期（3年間）経営目標	e 短期（今年度）経営目標	l 結果の分析 （結果と課題をこう考えます）	m 今後の改善策（案） （こう改善します（案））
***	◎貫 9年間を通して，確かな学力を育成する	◎貫 子供の問いを生かした「考える授業づくり」を推進させた授業改善	○算数科の予習においては「考える授業づくり」を進めている。低学年はAI型教材のキュビナを効果的に活用し，基礎学力の定着と習熟を図っている。3年生以上では進んで予習に取組ませ，児童と教師が問いを共有したうえでより深く考える時間を確保できるような授業展開を進めている。学年によっては個の学力差が大きく，予習を学びに生かすための質的向上が今後の課題である。	○形式的な予習ではなく，前時や既習事項とのつながりを意識させていく。「…を使って考えると」「前時に…と学習したから」というように児童が主体的に課題に向かう姿を目指す。そのためには，予習の効果的な活用方法を示す必要がある。予習を通して，児童の問いをもとにした授業づくりを進める。
		「主体的・対話的で深い学び」を充実させるための授業改善	○道徳科のみならず，他教科でも「はなしたいわシート」を活用し，低学年では理由をつけて話すこと，中学年では比べながら考えること，高学年では相手の話を聞く中で自分の考えを深め，伝えることを意識させている。前年度より「サークル対話」を取り入れ，児童が本音で語り合う場を設定している。自分の思いを自分の言葉で表現することに難しさを感じている児童への手立てが今後の課題である。	○道徳科で培ってきた「自分の思いを表現する力」をどの子にも付けていく。そのために国語科を中心とした言葉の力を付ける，指導者が1つ1つの言葉にこだわった授業を行う，意見交流の場を意識的に設ける，また誰もが発言しやすい学級づくりを意識し，主体的・対話的で深い学びを実現する。
			○ドリルタイムや広南タイムを活用し，基礎内容の反復を行うなどの学力補充を行っている。しかし，現学年以前の学習内容が十分に定着していない児童も多く，「どの子が何につまずいているのか」実態把握をしたうえでの指導の個別化が必要がある。	○児童の実態を適切に把握し，個の困り感に寄り添った指導を行うための教材研究など，個別支援を中心とした学力補充の時間・機会をさらに設けていくことで基礎学力の定着を図る。
**	○ 貫 礼節と挑戦心を身に付け，健やかでたくましい心と体を育成する	基本的生活習慣の定着	○多くの児童が「5つの合言葉」を守って生活できている。毎月の生活目標として「挨拶」や「掃除」を位置づけることで肯定的に振り返りを行った児童が多かった。また，昨年度より児童委員が中心となり生活目標を考え，全校児童に伝えることで，より身近な課題として取り組む児童が多くなっている。	○常に意識して行動できているかについては個人差がある。また，否定的に捉えている児童は固定化されている。教職員間で共通理解を図り，統一した指導ができるようにする。
			○第1回5月26～28日、第2回9月8～10日に実施した。学校全体で「早ね」「メディアコントロール」をがんばる日を設定し、保護者へ配信や校内での放送での呼びかけを行った。昨年度は達成度が60%台であったので、「早ね」を意識できるようになってきたが、継続した取組が必要である。	○引き続き、学校全体でがんばる日を設定する。家庭への協力の案内や校内での呼びかけを継続する。結果はほけんだよりや学級懇談の場を通じて周知し、学校と家庭が連携して児童の生活リズムのより良い確立へ向けて取組む。
		体力の向上	○新体力テスト重点三種目の結果を全国平均値と比較すると全国平均値を上回った児童の割合は60%になった。特に，「50m走」では学校全体で平均値を超えていない児童の割合は46%であり，最も課題がある。また，くれチャレンジマッチスタジアムへ全校児童が参加し，全校参加種目のうちいずれかの種目で全学年5位以内の目標を達成することができた。	○全学年の体育科の準備運動に走の運動（走の運動遊び）やくれチャレンジマッチのダッシュリレーを取り入れる。また，体幹を強くするトレーニングや正しいフォームを身に付けられる指導を継続的に行っていく。また，6年生や保健・美化委員会を中心に，ロング昼休憩を企画する等，児童が楽しんで外遊びができる機会を設ける。
*	○ 貫 自己有用感を高め，活力を生み出す学校をつくる	異学年交流や地域との交流活動を通した資質・能力の育成	○学園運動会を通して，1年生から9年生まで交流を深めることができた。また，遠足や縦割り掃除でも他学年と関わりをもって活動することで学校の一員としての自覚をもつことができている。各学年，教科の学習や総合的な学習等で地域の方と関わったり指導していただいたりすることで，地域に対する児童の感謝の気持ちが高まっている。	○2学期はロング昼休憩での全員遊びや縦割り遊びを計画している。また，小中合同での学園遊びも実施予定である。引き続き，さまざまな場面で異学年交流を設定することで学校の一員としての自覚を醸成させていきたい。また，引き続き地域の方と連携し，各学年の実態に合わせて交流を図っていく。
		◎貫 児童の「自分の命は自分で守る」力の育成	○4月に引き渡し下校訓練、交通安全教室、6月に防災リーダーと連携し、中学校と合同で土砂災害垂直避難訓練を実施した。「7.9広南防災の日」祈念式では、広南地区で実際に起きた土砂災害の伝承と災害に強いまちづくりへの意識を高めた。	○1学期は主に出水期における自然災害の訓練を実施した。1年間通して、交通安全、生活安全に関わる訓練を実施し、児童が自じょ分の命を守るために今、どのように行動すればよいか考え、行動できる力を養う。
		いじめや暴力行為等を許さない学校環境づくりを推進する。	○学園全体で行う「いじめ撲滅キャンペーン」やいじめ撲滅標語の作成を通して確実にいじめに対する意識が高まっている。	○2学期以降も継続的に「いじめ撲滅キャンペーン」を中心にいじめ撲滅のための取組を確実に行う。いじめ事案が生起した場合には，担任及び生徒指導主事・管理職で迅速に連携を行い対応する。
業務改善	○ 貫 働き方改革を推進する	○ 貫 長時間勤務の縮減	○　日々の火・木日課をすいすい日課に変えたり，月に1回全校5校時下校を入れたりすることで，放課後の時間を確保することができ，長時間勤務の縮減につながった。	○　行事や研修に合わせて日課を工夫することで，日々の業務負荷がかからないよう調整を継続する。 ○　行事や分掌を進めていく際には，部会や，ペア学年で声を掛け合い，協力して取組むことができる体制を作る。
		「働きやすさ」と「働きがい」の両立	○　悩みや困っていることに応えていくことで，「働きやすい」と感じている教職員が多い。先生方の強みに合わせて校務分掌等と配置したことで，「働きがい」を感じている教員が多い。	○　相談しやすい職場づくりや，児童の成果を教員同士で交流する場を設けることで「働きやすさ」と「働きがい」を感じられるようにする。